

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はぐくみの家 第1 ココ		
○保護者評価実施期間	R6年 9月 5日		～ R6年 9月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	R6年 9月 5日		～ R6年 9月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 9月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご家庭への支援。 兄弟児で障害の有無に関わらず身近な相談窓口となることができ、療育を含めた通園先を相談したり、必要に応じて当事業所の利用についてもスムーズに進めることができる。	送迎時や面談の際に、利用児だけの聞き取りだけではなくご家庭のお話もうかがい、困っていることや心配なことがないか、普段の会話の中で十分にコミュニケーションをとり、急に何かあっても相談しやすい関係づくりに努めている。	面談や送迎時にコミュニケーションをとることができるが、保護者同士の交流をはかったり、ペアレントトレーニングを目的とした研修会などをおこなっていくことができるよう、今後企画をしていく。
2	延長の対応。 R5年度は日中一時支援事業により保護者の就労やレスパイトを目的としていたが、R6年4月より延長支援を行い、保護者の負担を減らし、当事業所の担当職員が引き続きお子さんを見ることで安心してご利用いただけている。	・おやつを提供について、顎の発達をうながすよう硬めのお菓子や、素材の味を感じられるような年齢に適したお菓子を提供している。 ・ご家庭の生活リズムに合わせて昼寝の時間を調整し、ご家庭に帰ってからリズムが乱れることのないよう、連絡帳を使用しご家庭と連携をはかるよう努めている。	・施設内で過ごすことに拘らず、社会での経験を増やすことができるよう、施設の外に出かけていく。 ・現在朝8時から17時までの対応としているが、フルタイムで勤務している保護者には預かり時間として不足があるように感じる。今後、職員体制を整えていき、さらに柔軟に対応できるよう工夫していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や幼稚園などとの交流の機会がない。 今年度企画をしているが、これまで一般園との交流をはかることができていなかった。	当事業所を利用している児童が通う一般園に定期的に伺い、連携して支援できるように努めているが、見学の際に交流をしてもらうことが可能かと提案しても、前例がないという理由で断られてしまっていた。公立の園だと特に障がい児との交流が少ないと感じる。	当事業所が働きかけても交流の機会ができないこともあるため、今後同サービスを行う他事業所との交流会や、このような課題にどのようにして向き合うか検討する機会が必要だと感じている。
2	当施設が元々病院の跡地であったため、環境上の課題が多くある。 (床が硬い点やドアが多い点など。)	施設が設備基準をクリアしていても、児童の特性に十分配慮した設備基準ではないため、環境上の課題が生まれていると考える。また、一人の児童の特性に対応し環境を整えても、他児の特性には合わないこともあるため、部屋の広さだけではなく、様々な工夫が必要だと考える。	パーテーションを使用し、部屋の広さを調節したり、幼児の足に合うマットを敷く等の工夫を行う必要がある。また、保育所や幼稚園等の同年齢の児童が通うのに適した施設を見学させてもらい、取り入れていく等の長期的な改良が必要である。
3			